

第61回 つくば歩の会

「文明開化をけん引した築地・明石町の史跡めぐりと忘年会」のご案内

明治維新後、築地に外国人居留地が定められ、西の神戸外国人居留地と並ぶ、西洋風な街が東京にも誕生しました。この居留地に競って集まって来たのは各種キリスト教の団体です。彼らは布教だけでなく、自前の病院、自前の学校を次々に創設しました。現在の私学の雄たちの多くはここを創立地としています。西の神戸が商館街であるのに対し、東の明石町は日本で最初の研究学園都市という姿をした街だったのです。

当然ながら、この街からは多くの日本初の出来事が誕生しました。歩きながら紹介します。それではなぜ、神戸のような西洋風な街が明石町に残っていないのか？答えは関東大震災です。壊滅しました。今回は明治維新後、日本がいかにして西洋の文化を取り入れて、文明開化の道を歩んだのか、残された史跡を巡りながら、明治人の思いに寄り添いたいと思います。午後は、築地の寿司屋で忘年会を行いますので、多数の参加をお待ちしています。

史跡めぐり：10時～12時半

忘年会：12時半～14時20分

※ どちらか一方の申し込みもOKです。申込時に記入してください。

申込締め切りは、12月1日（金）

- 1) 日時：2017年12月8日（金）
 - 2) 集合場所と時間：東京メトロ日比谷線 築地駅(地上に出た所) **10時集合**
 - 3) 主なコース：約2.5km
 - ・10時～10時半⇒ ①築地小劇場 ②桂川甫周屋敷跡 ③活字発祥の碑
 - ・10時半～11時半⇒④浅野内匠頭邸跡 ⑤芥川龍之介誕生の碑 ⑥～⑩各私学創設の碑・トイスラー記念館・アメリカ公使跡・ガス街灯柱・指紋研究発祥の地など
 - ・11時半～12時⇒ ⑪シーボルト像 ⑫電信創業の地 ⑬運上所跡 ⑭月島の渡し
 - ・12時～12時半⇒ ⑰海軍経理学校跡 ⑱勝鬨橋資料館 ⑲軍艦操練所跡 ⑳八紘一字の碑 (21)築地本願寺
 - ・12時半～14時20分⇒ 忘年会後解散
- ※番号のない個所は口頭解説とします。
- 実際に歩くルートをスタート前に配布します。**
- 4) 参加費：4,000円
 - 5) 世話人；鈴木紘一（0297-65-8420）、町田良一（04-7149-2255）
 - 6) 参加出欠届け先
鈴木 紘一 <suzumusubi3@jcom.home.ne.jp>

自宅:0297-65-8420(留守電あり)

携帯:080-5698-2803(cメールでもOKです)

※いずれかの方法でお願いします。

関さんが検査入院中の為、今回のみ鈴木が受付業務を代行してまとめます。

忘年会：さかな竹若 築地本店 (Tel 03-5565-0888)

中央区築地4-7-5 築地KYビル B1F

交通

① JR線・メトロ線利用

常磐線 土浦(8:14)→我孫子(8:49)→柏(8:55)→北千住(9:11)→同駅、
日比谷線乗換(9:20)→築地(9:42)・・・

先頭車両を降り、改札を出て、**出口1**より地上へ出た場所に集合

② TX線、メトロ線利用

TX線 つくば(8:30)→北千住(9:13)→同駅、日比谷線乗換(9:20)→築地
(9:42)・上記と同様、**出口1**より地上へ出た場所に集合

③ メトロ線利用

丸ノ内線 東京(9:34)→銀座(9:36)→同駅、日比谷線乗換(9:38)→築地
(9:41)・・・最後尾車両を降り、改札を出て、**出口2**より 地上へ出た場所に集合

<築地・明石町の歴史>

豊洲移転で揺れる築地市場がある築地地域は江戸時代の明暦の大火(1657年、明暦3年)後に埋め立てられた造成地。その後、1700年代の元禄期には、忠臣蔵で有名な播州赤穂藩浅野内匠頭長矩の上屋敷など、大名や旗本の邸が建ち並ぶ格式のある地域となりました。しかし、明治維新により武家屋敷は解体され、新たに外国人の為の築地居留地として整備されて、西の神戸に匹敵する異国情緒溢れる洋風な街並みに大きく変貌しました。

特に今回歩く築地・明石町界限には現存する多くのミッション系スクールの発祥の碑が点在しており、学園都市のたたずまいを思い描けるでしょう。

印刷業・靴製造・洋風ホテルもここが発祥の地。そして海軍訓練・税関・指紋研究などもこの地が起点です。明治時代のパワー溢れる築地・明石町が皆さんをお待ちしています。

1) 築地小劇場跡

大正の関東大震災後にできた新劇の常設館(滝沢修、宇野重吉他)。西洋演劇を普及させた名優たちの名前が出てきます。そしてここに劇場ができた背景とは・・・

2) 桂川甫周屋敷跡

蘭方医桂川家は初代甫筑(1661~1747)が将軍徳川家宣に仕えて以来代々奥医師。特に有名なのは四代目の甫周。杉田玄白等と一緒に「解体新書」を翻訳した。寛政6年(1794)

医学館の教官となり、将軍に顕微鏡の講義をしている。また漂流してロシアを旅行した漁夫幸太夫等から聞いたその土地の風俗・制度等を記して「北槎聞略」等を著した。その他、翻訳や著書が多い。その顕微鏡ですが、2014年のノーベル化学賞は「細胞内の生命現象を見る超高解像度の蛍光顕微鏡の開発」、2017年のノーベル化学賞は「クライオ電子顕微鏡の開発」に授与されました。顕微鏡発展の歴史も面白いよ。

3) 活字発祥の碑

幕末に長崎奉行所のオランダ通詞・本木昌造は印刷および活字に魅せられ、日本語の活字を開発した。記念碑に書かれたフォントは「築地体」という明朝かな書体で書かれている。日本の明朝体のかな活字は、この「築地体」が基になって、その書体を多様に発展させていきました。築地は日本の活字発祥の地です。この結果、今も築地の地場産業は印刷産業である。

4) 浅野内匠頭跡

赤穂浪士の一行は両国の吉良邸からこの屋敷に寄り、品川泉岳寺まで13 kmを歩いた。当時の江戸の街づくりを考えると、銀座4丁目を歩くようなもの。ニュースにならないわけがない。

5) 芥川龍之介生誕の地

芥川賞・直木賞の違いを言えますか？こんな質問をここでしますよ。

6) 大学発祥の地

立教大学、青山学院、女子学院、慶應義塾大学(蘭学事始めの地)、明治学院大学他大学は大きく分けるとミッション系スクールとその他に分かれます。どんな大学がここから生まれたのでしょうか？その背景とは？

7) 聖路加国際病院・トイスラー記念館

聖路加病院と言えば105歳まで現役を貫いた「日野原重明先生」ですね。今年残念ながら死去されました。サリン事件など大きな出来事に対応してきた先生の生きざまを紹介します。この場所は、昔(江戸後期)、豊前中津藩奥平家の中屋敷があった。ここで解体新書が翻訳されている。トイスラー記念館は当時の建物を連想させてくれます。

8) ガス街灯柱

この街灯柱は、明石町の築地居留地で使用されたと伝えられている。高さは、3.4mで、柱は鋳鉄製、コリント風の様式をとり、柱頭・柱身・基部の部分からなる。柱頭のランプ部分は後に付けられたもので、柱頭の下には左右に長さ20cmの腕金が出て、柱身の下部には繰型が見られる。当時は、夕方になると点火夫が長い棒の先に鍵と点火具の付いたものを持って、ランプの底を開いて点灯し、夜明けには、ガスのバルブを閉じて消灯して廻った。

9) 指紋研究発祥の地

日本人が行っていた指印の習慣そして品川の土器に残された指紋に着目し、医師ヘンリー・フォールズがこの地で研究を開始し、明治13年にネイチャーへ論文を投稿した。日本の警察で指紋法が採用されたのは明治44年からである。面白い逸話が残されている。

10) アメリカ公使館跡・・・ここが跡地。

鹿鳴館の華、陸奥亮子もここに出入りしていたかも・・・

11) シーボルト像

この地が江戸蘭学発祥の地であり、且つ彼が長崎でもうけた娘いねが築地に開業したこともあり、ここにシーボルトの胸像を建て、日本への理解と日蘭の橋渡し役としての功績をたたえた。

12) 電信操業之地

明治2年9月19日(太陽暦10月23日)横浜裁判所と東京築地運上所内に設けられた「電信機役所」を結ぶ、約32kmの電信線架設工事が開始され、同年12月25日に業務を開始した。これが、我が国における公衆電気通信の最初である。

13) 運上所跡(東京税関)・・・東京税関はここがスタート。やっと海外との正式な取引ができるようになった。

14) 月島の渡し跡・・・明石町から月島まで私設の有料渡船が発祥

15) はとば公園・・・勝鬨橋が一望の景勝地(集合写真候補)

16) かしどきのわたし跡・・・月島との間に、勝鬨橋が完成するまで存続

17) 海軍経理学校跡

築地地域は、軍艦操練所や海軍発祥の地の碑、海軍兵学寮の碑等の海軍関連の施設が多くある内の一つ。

18) かしどき橋の資料館

勝鬨橋は1940年完成した跳開橋で、1970年以来、開いていない。現在は、隅田川に架かる清州橋、永代橋と共に2007年に国の重要文化財に指定された。資料館は、勝鬨橋を開くために使用していた変電所を改修した展示施設で、展示物や映像を通して勝鬨橋、そして隅田川の橋について理解を深めることができる。

19) 軍艦操練所跡

軍艦操練所は、ペリー来航以降、海防の重要性に気づいた江戸幕府が開設した軍艦の操艦等に関する教育のための施設。操練所では、オランダから寄贈された観光丸で乗員訓練が行われた。江戸末期には、海軍奉行が置かれ、勝海舟も海軍奉行に名を連ねている。その後、海軍所と発展した。

20) 八紘一字の碑・・・これも海軍関連の一つ。

「八紘一字」とは日本軍が全世界を侵略し、天皇を頂点とした世界を造るための標語として使われた言葉。全世界(=八紘)を一棟(=一字)とするという意味。2本の石柱の間に木の「国旗掲揚柱」があった。木は石柱に挟まれた部分を残し上の部分は腐って無くなっている。

2 1) 築地本願寺

東京都中央区にある浄土真宗本願寺派(西本願寺)の別院。築地別院ともいう。1617年(元和3, 一説に1621年)本願寺12世准如が浜町に創建、57年(明暦3)火災にあい、翌年現在の築地に移った。この別院の輪番(役僧)は本山と幕府寺社奉行の交渉にあたりるとともに、東海・東山13ヵ国末寺を支配した。堂宇は火事や暴風雨などの災害にたびたびあい、現在のインド風建物は1934年の造営。境内に画家で俳人の酒井抱一や、真宗内部の教義論争(三業惑乱)に活躍した僧大瀛(だいえい)の墓などがある。

以上